

# コンビネーション336号

チェスは 最後の最後までわからない

函館チェスサークル・インターネット通信

2016年10月31日 発行



公園のチェスセットとアゼルバイジャン国旗

チェス・オリンピック参加レポート(3)

チーム全体としてどのように勝負するか

サントメ・プリンシペに勝った後、日本チームは星を伸ばすのに苦労しました。格上への挑戦となった5ラウンドのタジキスタン戦は小島負け、南條勝ちのドロー。このラウンドは自分に勝つチャンスがあったものの、中盤の判断を誤り引き分けてしまい、悔やまれるラウンドとなってしまいました。

続く6ラウンドでは、2010年にロシアのハンテューマンシスクオリンピックで負けているルクセンブルグと対戦しました。このラウンドでは3ラウンドで失格となった唐堂を復活させましたが、1.5-2.5で負け。途中までは良い勝負だったものの、チーム全体としてどのように勝負するかという方針で、向こうの方が上回っていたと感じました。

今後、オリンピックで更に上を狙うには、個人のスキルアップだけでなく、チームとしての準備も必要になってくるかもしれません。いずれにせよ、2010年のリベンジはならず、順位を落としてしまいます。

ザンビアはチームメンバー全員がIM

しかし、7ラウンドではチュニジアに3.5-0.5と

圧勝し、また上位チームに挑戦するラウンドを迎えました。後半の勝負所です。

この8ラウンドで当たったのはザンビアでした。チェス後進国の多いアフリカの中にあって、複数のマスターを揃えた強豪国チームです。

彼らが注目を浴びたのはやはり2010年のオリンピックでした。このとき、我々日本チームは4ラウンドでザンビアと対戦し、大激戦の末2.5-1.5で勝利しました。

(その時の様子はBehind the Sceneに書かせてもらっています→

<http://chessplayer.jugem.jp/?eid=506>)

しかしその後のラウンドでザンビアは快進撃を見せ、最終的に47位となり世界のあつと言われたのでした。

あれから6年、日本チームは再びザンビアと相まみえることになりました。ザンビアはチームメンバー全員がIMとなり紛れもなくレベルアップしています。一方の日本も着実にレベルアップしてIM二人をようするチームになっています。

僕も6年前に対戦し、勝利したChumfwa Kelvin (IMケルヴィン・チュンフワ)との再戦となりました。

このラウンドも激戦は必至でしたから、気合を入れて準備をしていきました。

白：チュンフワ (Chumfwa Kelvin)

黒：山田弘平

2016年バクー、アゼルバイジャン8R

## 1. e4 c5

6年前のゲームは1. d4 から始まりましたが、白は手を

変えてきました。が、こちらも 1...c5 (シシリアン・ディフェンス) と 6 年前のレパトリーとは別の定跡で応じます。

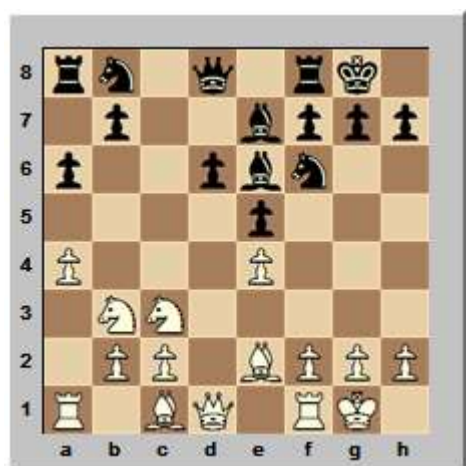
日本国内ではかなり指している定跡ですが、インターネットのデータベースには入っていなかったので、相手は十分な準備ができていないはずと考えました。

このような序盤における駆け引きも、オリンピック級の面白いところです。

## 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be2 e5 7. Nb3 Be7 8. O-O O-O 9. a4 Be6 (図 1)

ここまでは Sicilian Defense Najdorf variation (シシリアン・ディフェンス・ナイドルフ・バリエーション) の典型的な形でスムーズに進みましたが、ここで白は少し考えて怪しい局面に誘導してきました。

図 1 白番 途中図



### 10. Bf3

やや珍しい一手です。普通は 10. f4 と突く局面で f ポーンの前にビショップが出てきました。理由の一つは 10. f4 exf4! 11. Bxf4 Nc6 とすることで、空いた e5 のマス黒に活用されてしまうのを嫌ったということだと思います。

もう一つ、d5 への利きを増やし、将来的に Nd5 と抑え込みをはかる狙いもあります。直前の準備では予想していなかった局面になりましたが、この局面自体は国内でも経験があったので、あまり悩まずに進めていきます。

### 10...Nbd7 11. Bg5 h6!?

とりあえず飛び出してきたビショップの態度を聞いてみることにしますが、局後、小島から 11...Rc8 を指摘されました。どうせ白は Bxf6 と指してくるのだから、h6 の一手を別のことに使うという考え方です。

自分としては、白の次の手が Bxf6 とは限らないと考えていたので、どちらが得かは難しいところだと考えていたのですが、こういった細かいところもきちんと突き詰めていくのが、マスターの証 (あかし) と言えます。

## 12. Bxf6 Nxf6 13. Re1 Qc7 14. Nd2 (図 2)

変わった手に見えますが、白の方針は変わっていません。この手の狙いは何でしょう？

図 2 黒番 次の1手は？



白の狙いは Nb3-Nd2-Nf1-Ne3 から d5 を抑え込む事にあります。

e3 のナイトは厄介で、d5 に飛び込むこともできますし、f5 に飛んでキングにプレッシャーをかけることもできます。黒はここで、Nf1-Ne3 を許さないよう、対策を練る必要があります。

### 14...Qc5!?

間接的に Nf1 を防ぐ面白いアイデアです。15. Nf1 には 15...b5! 16. Ne3 b4 17. Ncd5 Nxd5 18. Nxd5 Bxd5 19. Qxd5 Qxd5 20. exd5 a5 =/+ で黒良しです。ポイントは最後の局面で白のポーンが c2 と d5 に残ることで、c2 はルークで狙われる弱点になり、d5 のポーンは白のビショップとルークの利きを止めて、d6 への反撃を止める邪魔な駒になっています。

Qc5 は b5 をサポートしながら、最後の 19...Qxd5 を可能にした手でした。

当然、相手は IM ですから全部わかった上で、次の手はノータイムでした。

### 15. Nb3 Qc7

当然と言わんばかりに Nb3 と指されました。こちらも一回は時間稼ぎですぐ Qc7 とします。

そして…

## 16. Nd2 Qc5 17. Nb3

2回目のNd2です。こちらはドローでもいいですよ、という意味表示です。(チェスは3回同じ局面が現れる1手前でドローを宣言できる。あとでくわしく解説)

ここで周りの状況を見てみると、小島はややチャンスのあるような局面、南條は難解な中盤戦を戦っていました。しかし、3番ボードのAlexは得意の定跡で進行が早かったものの、上手く対応されてしまっており、すでに形勢をだいぶ損ねているように見えました。

レーティングから考えたら、自分がドローにできるのはチームにとっても大きなポイントのはずでしたが、チームの形勢が良くないので17手目の局面で打開します。



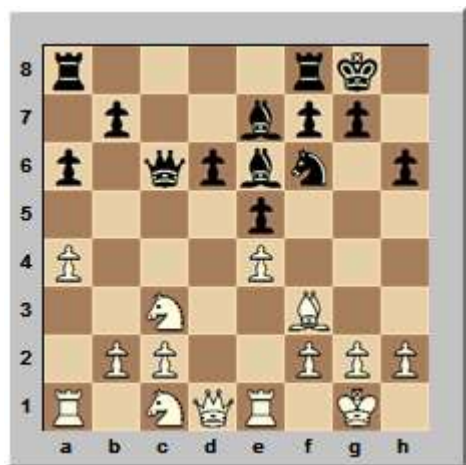
チームメイトの南條さん

## 17... Qc6 18. Nc1?! (図3)

すると今度はこちらにナイトを下がってきました！クイーンをc6に引いたため、Nd3-Nb4-Nd5というルートでd5を目指してきます。途中のNb4がクイーン取りになるのが、この手のポイントです。実現すれば強力なアイデアですが、この瞬間白のピースは働いていません。

ここは勝負どころだと思いました。

図3 黒番 次の1手は？



## 18... b5!? 19. Nd3 Qc4!

b5とクイーンサイドから動いていきます。白は予定どおりNd3ですが、そこでQc4が準備の一手。b4のマスを守りながら、b4突きやd5突きを狙います。

白が素直に指すとすれば20. axb5 axb5 21. Qd2 くらいですが、21... Rxa1!? 22. Rxa1 b4 23. Nd1 Rb8 =/+でこれはピースの働きで黒に分がある戦いです。

白は困ったのではないかと思っていましたが、ここで彼はすごい手をひねり出してくれます。

## 20. Be2!?

とにかくクイーンを追い払おうという手で、次のNxe5が狙いになっています。一見、20... Nxe4? でポーンが取れそうですが、21. Nxe4 Qxe4 22. Bf3 で逆にエクステンジダウンです。

最初、この手に対しては20... b4と突くつもりでした。21. Nxe5?を食らうように見えますが、21... Qc7と引くと逆に白がわなにハマっています。ところが、20... b4 21. Na2!?!の展開はあまり自信が持てませんでした。b4のポーン取りとNxe5を両方受ける手がないためです。コンピュータによるとそこで21... Nxe4!で黒が指せるとのことですが、リスクに見えたのでやめました。

ではどうするかですが、実戦的にはとりあえず一回、次の手は指しておきたいところです。

## 20... Qc6 (図4)

### 21. Bf3 Qc4

21. Bf3の局面が2回出現しました。

### 22. Be2 Qc6 (図4)

やや迷いましたが、自信のある展開を見いだせなかったため、c6にクイーンを引いて相手に判断を委ねます。

白がここで、①棋譜にBf3と書き、②時計を止めて審判を呼び、③3回同一局面を指摘すれば、このゲームはドローです。自分の手番のときに指摘するのが重要で、基本的に相手の手番でこちらからアクションを起こすことはできません。

やりがちなのは、指摘の前に着手してしまうことで、着手して時計を押すと手番が相手に渡るため指摘ができません。このミスは強いプレイヤーでも良くやるので注意が必要です。

さて、序盤の流れから言えばあっさりドローになりそうところですが、自分はそうはならないと思っていました。

図4 白番 途中図



### 23. axb5!

白も気合で打開してきます!6年前の借りは当然返しに来ると踏んでいました。そして何より、この局面では駒得することができるのです。

### 23... axb5 24. Nb4 Qc5 25. Na6 Qb6 26. Bxb5 (図5)

図5 黒番 次の1手は?



これで白はポーンアップです。黒がうっかりしたのでしょうか?



アゼルバイジャン、近景は古い町並み、遠くは超近代的なビル

答えはNO(ノー)です。実は白がこの局面に飛び込んでくることを期待していました。この瞬間は白のピースの連携が悪く、必ず何か技がかかるとははずだと考えていたからです。

コンピュータはこの局面を白が良いと判断していますが、実戦的には黒の決断は良かったと思います。しかし、自分にとって誤算だったのはその「技」を見つけるのが思っていた以上に大変だったことでした。

### 26... Rfc8! 27. Qd3

まずは Rxc3 を狙います。白は当然受けますが…。

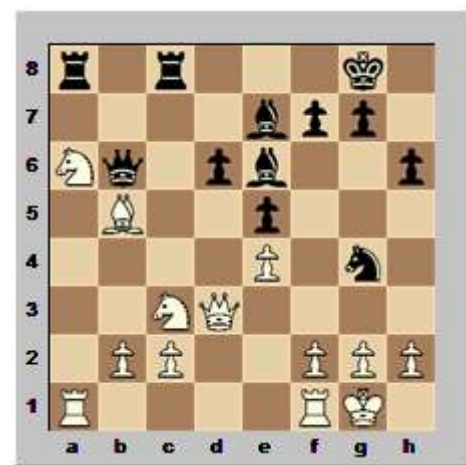
### 27... Ng4 ?

予定の一手でしたが、ミスでした。

Nb4-Nd5 がクイーン取りにならないよう、先に 27... Qb7! と引いておく手が好手。これならば白もクイーンサイドのピースの扱いに苦勞することになったでしょう。

### 28. Rf1 (図6)

図6 黒番 次の1手は?



しかし、実戦は難しいもので、白はこちらの期待通り Re1-f1 と受けてきましたが、この手は良くありません。

28. Qe2! と受けておけば、黒に有効な攻めがなく、リードを保てたようです。

### 28... Bg5!

これが Rfc8 からの狙いです。Nxf2~Be3 のような攻めを見せて、白に楽をさせません。白は1段目のルークの連携が切れると、a1のルークがピンになってしまうため、a6のナイトが受けづらくなってしまいます。

### 29. Nd1?

ここは強く 29. h3! が好手でした。29... Nxf2 30. Rxf2 Be3 31. Raf1 Bxf2 32. Rxf2

以下 32... Ra7 に対して、33. Nb4? Ra1 34. Nd1 Rc5!

35. c4 Bxc4! +/- と畳み掛けていく予定でしたが、  
33. Na4! という返し技があり、白優勢でした。

しかし、ややナーバスになっていた白が Nd1 と f2 を補強したのは理解できます。この瞬間は、ルークの連携が切れたため、黒のチャンスです。

### 29... Rd8!

d5 を狙いながら c8 のマスを開ける絶好のカウンターです。

### 30. h3 Nf6 31. c4 (図7)

白はナイトを追い払って d5 突きを受けますが…。

図7 黒番 次の1手は?



### 31... Nh5?

ここで時間切迫もあり、チャンスを逃してしまいました。予定していたのは当然 31... Bc8! で、白は a6 のナイトを逃げることはできません。Nd1 とルークの連携を切ってしまうため、a1 のルークが浮いているのがポイントです。

ところが、その手を指す直前になって 32. Nc3 Bxa6? 33. Bxa6 Rxa6? (33... Qxb2!? は信じられないことに難解な形勢です) 34. c5!+/- という手が見えて、予定を変更してしまいました。(白の駒得になっていることを確かめてください)

もう少し落ち着いて考えていれば 32... Rxa6 ! 33. Bxa6 Bxa6 =/+ を発見し、有利に試合をすすめることができていたと思うので、もったいない瞬間でした。

ここは本局のキーポイントで、ここから黒は苦しくなります。

### 32. Nc3 Nf4 33. Qf3 Ra7 34. Nb4

黒は Nf4 と急所にピースを運んだものの、それ以上の手がなく、Nb4 と捕らえていたナイトに生還され、ここでははっきりまずくしたと感じました。

### 34... Rxa1 35. Rxa1 Bxc4 36. Bxc4 Qxb4 37. b3 +/- (図8)

図8 黒番 途中図



黒はタクティクス(手筋)でポーンを取り返しますが、取り返した後の局面は、白のビショップとクイーンが f7 に狙いを定めています。これに対抗できるピースが、黒にはありません。

この時点でチームポイントは 1.5-1.5 だったため、6年前同様、自分のゲームにチームの勝敗がかかることになりました。しかし、6年前と違うのは、目の前の局面がはっきり苦しいということです。

### 37... Rc8 38. Kh2 Qb7 39. g3 Ne6 40. h4 Bd8 (図9)

図9 白番 次の1手は?



白は持ち時間が増えるまで、慎重に黒のピースを追いやっていきます。黒はひたすら耐えるしかありませんが、増えた持ち時間を 8分使った、白の次の手が好手でした。

## 41. Nb5!

この手を見て、このゲームは助からないかもしれないと思い始めました。黒からの Nd4 を防ぎながら、Ra7 や Nxd6 を狙う一石三鳥の好手で、ナイト跳ねを封じられた黒には有効な手がありません。

## 41... Qb6

なんとか局面を難しくしようと f2 に狙いをつけます。

悪い局面でもとにかく狙いを作って、相手に余裕を与えないことがチャンスにつながると考えました。

## 42. Kg2!

決して勝ち急がないマスターの一手です。f2 を先受けされて、いよいよやる事がなくなってきました。

## 42... Bf6 43. Nc3

44. Nd5 を狙った手ですが、ルークが7段目に入るチャンスが消してしまったのはもったいなかった気がします。43. Qg4! Re8 44. Ra7 ならば、白の勝勢でした。

## 43... Nc7 44. Rd1 Rf8

この手が黒の最後のあがきです。まさか狙いが本当に実現するとは思っていませんでしたが…。

## 45. Qh5!?

正確ではないかもしれませんが、面白いアイデアです。f7 に狙いをつけて、黒ルークの動きを制限しながら Rd3-Rf3 と更に f7 へプレッシャーをかける狙いです。

## 45... Qc5 46. Rd3 Bd8 47. Rf3 (図10)

図10 黒番 途中図



この素晴らしいプランを見つけて気がゆるむのは仕方ないかもしれませんが、白は最後にもう一度、落ち着いた局面をみるべきでした。

チェスは最後の最後までわからないのが面白いところです。自分は、相手をだますならここしかない(笑)と、仕方ないといった手つきで次の手を指しました。

## 47... Ne6 48. Rxf7??

Ne6 と指した次の瞬間、相手はノータイムで f7 のポーンを持ち上げ、f3 のルークを動かそうとしてきました。そして次の瞬間、彼はそのかっこうのまま、がく然とした表情で固まってしまったのです。

タッチアンドムーブのルールにより着手はしたものの、あまりのショックで彼はしばらく時計を押すことすら忘れていました！



会場横でお茶をふるまっているテントの中にて

白が狙いとしていたサクリファイスは成立しません。

48... Rxf7 49. Bxe6 で黒陣は崩壊しているようですが、44 手目に f ファイルへやってきたルークが、遠く f2 に狙いを定めており、強力なカウンターを許してしまうこととなります。この隠されたカウンターアタックこそ、黒の最後の狙いでした。

もどって、48. Rxf7 ではなく 48. Nd5 から Ne3-Nf5 とゆっくり指していれば、何も起こらず白の勝ちになっていたと思います。

## 48... Rxf7 49. Bxe6 Qxf2+ 50. Kh3 Qf1+ 1/2-1/2 (最終図)

図11 最終図 ドロー



最終図からは 51. Kh2 Qf2+ 52. Kh1 Qf1+ 53. Kh2 Qf2+

54. Kh3 Qf1+（最終図と同じ）と黒から同じようなチェックが続きます。これをパーペチュアル・チェックといいます。白は仕方なくドロウに合意しました。

序中盤の流れから考えれば、もっと楽に0.5ポイントが取れたはずのゲームであり反省点も多い一局ですが、このゲームを生き延びたことは自信になりました。

自分がチェスで一番難しいと感じるのは、少し良い局面を勝ち切ろうとするときです。この苦しいゲームも「相手にとっても勝ち切るのは難しいはず」だとずっと思っていたのが功を奏した気がします。

何はともあれこの大逆転ドロウでチームとしてもドロウ。負けを回避し、上位チームへの挑戦へ望みをつなぐことになりました。そして、このあたりから、チームの結果に加えて個人の勝敗も重要になってきました。この時点で6試合中4ポイントを取っていたため、残りの3試合で2ポイントを取れば、9試合で勝率65%以上の条件を達成し、FMタイトル獲得です。

なるべく易しくなるように書いたつもりですが、それでも説明を省いているところが多く、難しいと思います。なぜこの局面が有利なのか、なぜこの手が良くてこの手がダメなのか、ぜひ盤に並べて、じっくり考えながら鑑賞してみてください。わからないところは友達や先生に聞いてもらえるとうれしいです。

(文：CM山田弘平 文中敬称略)

## レペティションによるドロウ提案の公式手順

以上、山田弘平のレポート5回シリーズの第3弾です。今回は独立させ336号として発行しました。

長い文章ですから全部読むのは難しいと思いますが、生徒は読める部分を読み、できれば青のメインラインだけでも盤に並べてください。また、保護者の方は棋譜がわからなくても、文章を追うことで雰囲気は味わっていただけると思います。

また、レペティション（3回同一局面）によるドロウ提案の公式手順がこれだけ具体的に書いてある日本語の文章はあまりありません。この際、よく読んでやり方を覚えておきましょう。

## <万国共通チェスの解説記号>

+/= 白やや良し, =/+ 黒やや良し

+/- 白優勢, -/+ 黒優勢

+ - 白勝勢, - + 黒勝勢

= 互角